

研究課題：主観的幸福感を用いた所得再配分政策の評価

研究課題/領域番号：18K01673

研究種目：基盤研究(C)

研究代表者：京都文教大学・総合社会学部・教授 筒井 義郎

(概要) ※2018年度実績報告書より抜粋

当年度に行ったことは次の2点である。第1に、交付申請書の研究実施計画の1. にあげた、「不平等回避仮説」の実証を進めた。その結果、アメリカでは「不平等回避仮説」が支持される傾向が見られたが、日本では強く棄却された。すなわち、日本では周りの人より豊かであると思っている人はその分幸福である。つまり、日本人は自分が他人より豊かであることを良しとし、平等を好まないのに対し、アメリカ人は他人より豊かであることを嫌う傾向がみられる。さらに、日米のこの違いの原因を分析し、アメリカ人でも、信仰心の強い人や利他性の強い人は不平等回避を強く示すが、そうでない人は不平等を嫌うわけでないことが分かった。一方、日本人は信仰や利他性は関係がないが、日本人のうちでも平等を嫌うのは集団主義的な人であり、個人主義が強い人は平等を嫌うわけではなく、平均的なアメリカ人と近い選好を示すことが分かった。

この研究について、労働供給関数の推定を通じて接近を試みることにし、厚生労働省の「国民生活基礎調査」のデータの利用申請をし、利用許可を得た。そのデータの読み込みをした。